

熊本市内の医療機関の現状等

◆診療・検査医療機関等の状況

- ・連日、受診患者が急増しており、受診をお断りせざるを得ない状況

◆入院受入医療機関の状況

- ・病床使用率以上に医療現場は非常に厳しい状況

◆オミクロン株の傾向と症状、対応

- ・重症化リスクの無い方は、「対症療法」にて症状の改善を図ることや休養が大切

◆医療機関の受診の仕方

- ・医療機関を適切に受診して頂く
- ・夜間に救急車を呼ぶか迷う場合など、まずは専用の相談窓口にご相談を

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの重症化率等について

	重症化率 (注1)		(参考) 致死率 (注1)	
	60歳未満	60歳以上	60歳未満	60歳以上
新型コロナ・ オミクロン株流行期 (注3、4)	0.03%	<u>2.49%</u>	0.01%	1.99%
新型コロナ・ デルタ株流行期 (注3)	0.56%	5.0%	0.08% (注2)	2.5% (注2)
季節性 インフルエンザ (注3)	0.03%	<u>0.79%</u>	0.01%	0.55%

※季節性インフルエンザはNDBにおける2017年9月から2020年8月までに診断または抗インフル薬を処方された患者のうち、28日以内に死亡または重症化（死亡）した割合である。新型コロナは協力の得られた3自治体のデータを使用し、デルタ株流行期の場合は2021年7月から10月、オミクロン株流行期の場合は2022年1月から2月までに診断された陽性者のうち、死亡または重症化（死亡）した割合であり、感染者が療養解除した時点、入院期間が終了した時点、デルタ株流行期の場合は届出から2ヶ月以上経過した時点又はオミクロン株流行期の場合は令和4年3月31日時点でのステータスに基づき算出している。年齢階級別の重症化率においても概ね同様の傾向が見られるが、比較する際にはデータソースの違いや背景因子が調整されていない点等に留意が必要。

(注1) 重症者や死亡者の定義については以下を参照。新型コロナと季節性インフルエンザの重症化の定義は厳密には異なっている点に留意。

新型コロナ：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000929082.pdf>

季節性インフルエンザ：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>

(注2) オミクロン株流行期については3月31日時点の報告に基づき算出しており、特に致死率について過小である可能性がある。

(注3) 季節性インフルエンザ・新型コロナともに分母に未受診者が含まれないため、重症化（致死）率が過大である可能性がある。

(注4) オミクロン株の亜系統であるBA.2やBA.5の流行期データではない点に留意が必要である。

<出典>

第80回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

事務局提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000929082.pdf>)

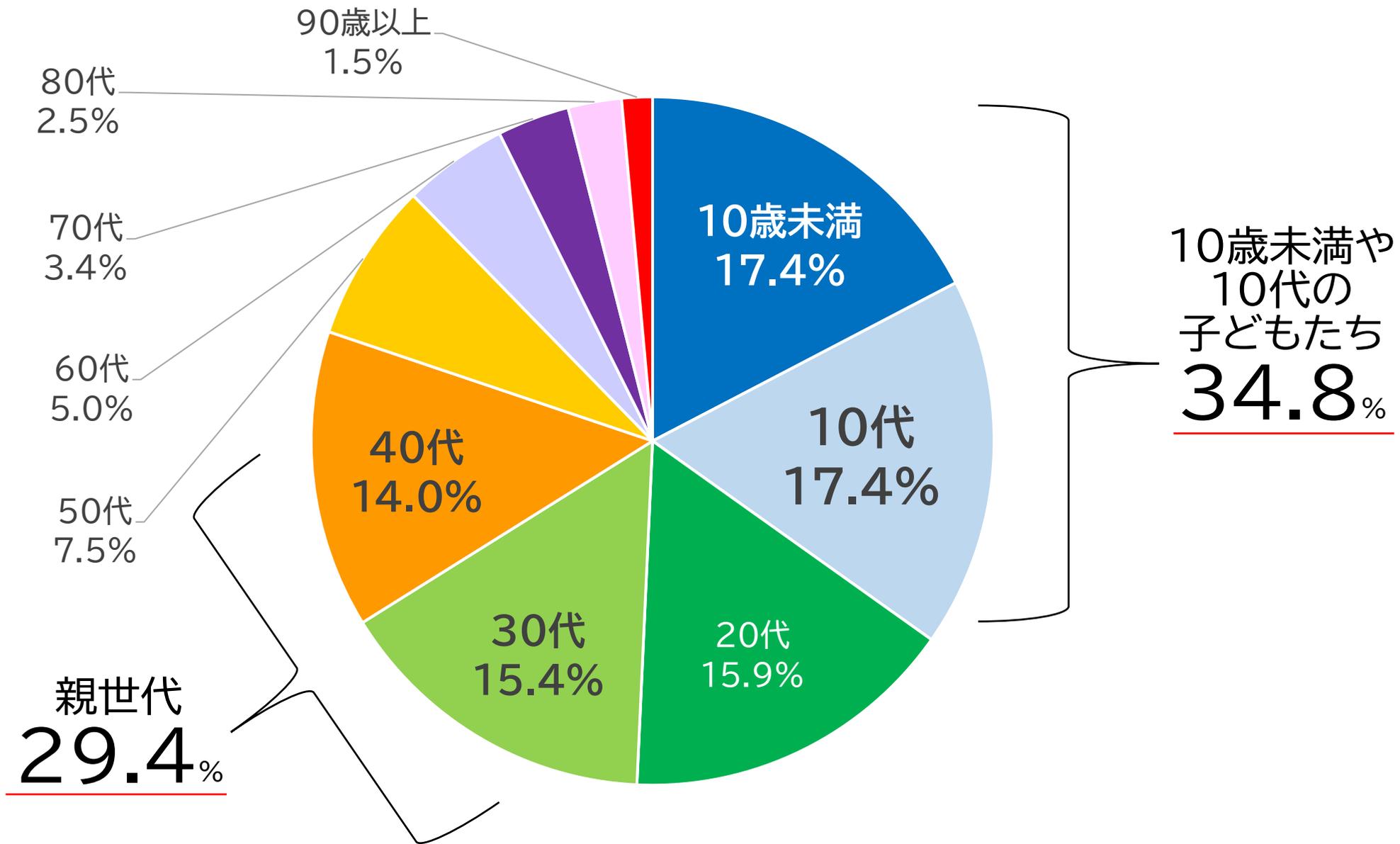
第70回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

事務局提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000892299.pdf>)

第74回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

野田先生提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>) を再集計

新規感染者の年代構成(1月1日~6月30日)



第6波(オミクロン株流行期)における重症化等の状況

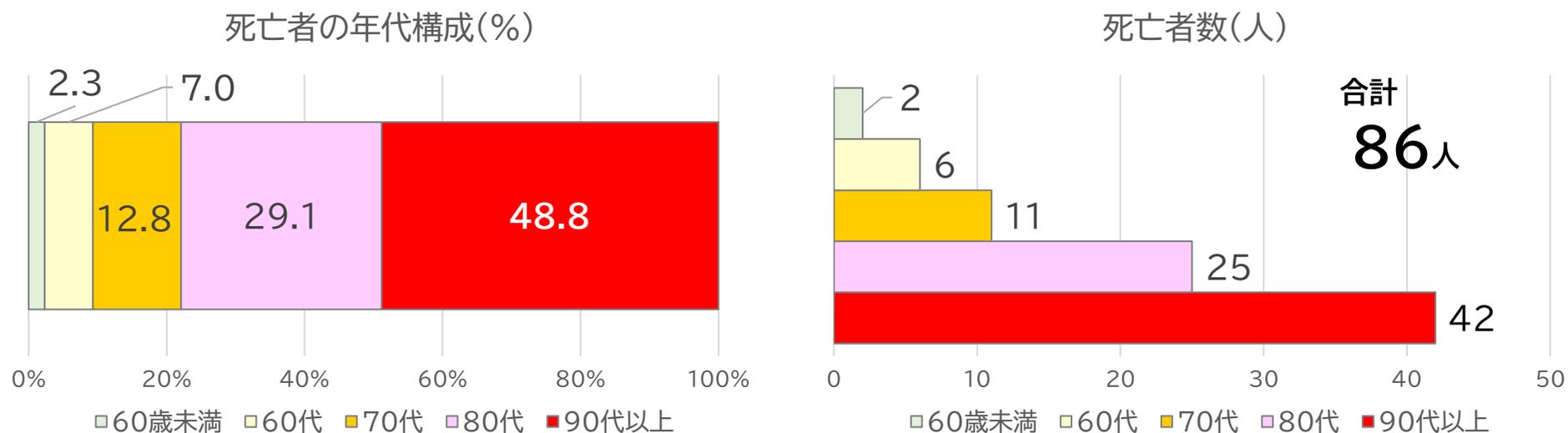
年代別の重症化率と致死率

期間	重症化率 ^{※2}		致死率	
	60歳未満	60歳以上	60歳未満	60歳以上
第6波 ^{※1}	0.02 %	2.10 %	0.005 %	1.42 %

※1:期間は2022.01.01~2022.06.30

※2:重症化率は、期間中に確認された新規感染者のうち死亡または重症化した割合

死亡者の年代構成と死亡者数



市民の皆様へのお願い

① 医療機関の適正な受診

② 重症化リスクの高い方を守るための
ワクチン接種

③ 高齢者や基礎疾患のある方 及び その
同居家族の皆様への感染防止対策の徹底

④ 感染に備えた食料・日用品・市販薬等の準備